



TOPICS

- ・事務所ニュース
- ・From Project / North  
根寄生雑草克服によるスーダン乾燥地農業開発  
(ストライガ)プロジェクト
- ・From Project / South  
水道事業管理能力強化プロジェクトフェーズ
- ・着離任挨拶
- ・My Favorite / 大江 景(元南スーダン駐在員事務所)



**【事務所ニュース】 今月は、スーダンと南スーダン両事務所から報告します！**



**南部スーダン生活・経済基盤整備支援プログラム形成調査**

6月13日(月)～6月24日(金)の2週間、「南部スーダン生活・経済基盤整備支援プログラム形成調査」が実施されました。本調査は、独立後の新国家建設の鍵を握る南部スーダン3大都市の1つである、アッパーナイル州マラカルを対象に、主にインフラ分野を中心とした基礎情報収集調査という位置づけの下、本部から6名の調査団員が来訪し現地踏査が行われました。マラカルでは、先方政府による手厚いサポートのお陰で調査は無事終了、今後本部において調査結果の詳細がまとめられて行く予定です。

**南部スーダン全10州の活動実態調査の報告ワークショップ**

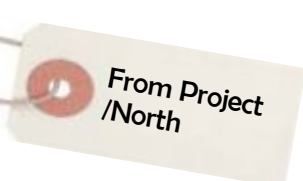
6月16、17日の2日間、「スーダン国ジュバ近郊の平和の定着に向けた生計向上支援プロジェクト(LIPS)」で実施した州農業省及び農村開発省の活動実態調査の結果を共有するためのワークショップが開催されました。LIPSは2009年2月から中央エクアトリア州農業省・農村開発省を対象とした組織能力強化及び人材育成を行っています。プロジェクトが2012年2月に終了することから、これまでプロジェクトの中で開発した様々なツールを将来他の州で活用する余地があるか否かを検討するために、当該調査は実施されました。ワークショップでは全10州のうち9州から州農業省及び農村開発省の局長・課長が集まり、また、南部スーダン政府農業省次官及び農村開発省次官も参加して、彼らが農村へサービスを提供する上で直面している課題について活発な議論が行われました。調査結果及びワークショップの結果については、報告書が7月末までに取りまとめられる予定です。



**ダルフール州農業関係者のゲジラ州視察**

7月18日～20日の3日間、ダルフール州農業省の関係者を招聘し、ゲジラ州が実施している農業セクターの事業視察を行いました。ダルフールにおける農業セクターは、紛争予防、食料安全保障、産業振興など多岐にわたる観点から極めて重要な分野であり、支援の必要性、緊急性ともに非常に高く、州政府から支援の要請が寄せられています。今般、地域間の技術連携の可能性を検討することを目的に、フィールド視察、ダルフール3州、ゲジラ州、カッサラ州の5州の農業省関係者、関連する技術協力プロジェクトの専門家と今後の協力の可能性について意見交換を行いました。





— いろいろなプロジェクトの専門家の方々から、スーダンで活動する中で感じるさまざまな思いや発見などを綴っていただくコーナー —

北部8回目は、根寄生雑草克服によるスーダン乾燥地農業開発(ストライガ)プロジェクトの桑田専門家です。

## スーダンと日本の共同研究

## スーダン乾燥地農業開発(ストライガ)プロジェクト

業務調整 桑田 弘史

### ストライガ

日本では極々少数の人にしか知られていないストライガも、スーダンでは“Buda”と言う名前で広く知られています。ストライガは右写真のピンクの花で作物の根に寄生して養水分を奪って成長する根寄生雑草であり、アフリカでは特にサブサハラ乾燥地における穀物生産(特に低所得者層の主食であるソルガム生産)に甚大な被害を与えています。当プロジェクトはストライガ防除を通して、スーダンにおける食糧生産の増大と安定化に貢献するとともに、将来的にはサブサハラアフリカ全域のストライガ防除に貢献することが期待されています。



### 科学技術協力案件

地球規模課題対応国際科学技術協力案件である当プロジェクトでは、代表研究機関となるスーダン科学技術大学及び神戸大学を中心に総合地球環境学研究所、大阪大学大学院工学研究科及び鳥取大学乾燥地研究センターが参画し、以下2つの課題を達成すべく、2010年3月より5年間に渡って共同研究が行われています。

- ・ストライガの防除法の開発
- ・ストライガ防除の知見集約と普及

### 共同研究

当プロジェクトでは、スーダンと日本の研究者の共同研究がテーマですが、現実にはスーダン側の研究環境が満足でないことや、情報量、経験が乏しいなど、研究環境の向上、および研究者の能力開発が不可欠となっています。Hard面では実験環境の整備を行い、Soft面では研究者としての能力向上のためにReading Circle(輪読会)やExcel講習を隔週で実施するとともに、JICAの本邦研修や日本への業務出張を利用し、様々な分析機器の理論、操作、データ解析等の指導を行っています。



### 普及活動

ストライガ被害の深刻なゲダーレフ州において農業省普及局、Agricultural Research Cooperation(ARC)の協力のもと2011年7月より農民学校を開始します。初年度は、ストライガ防除方法を含む基礎的な栽培技術の普及と、現地圃場でのソルガムの生育や収量、ストライガの被害状況など農学的データの収集を主目的とします。そのため、ストライガ抵抗性品種と複数の栽培技術を組み合わせ合わせた総合的な技術パッケージと慣行的な栽培方法の比較ができるDemonstration Farm(On Farm Experiment)を実施します。得られる知見は利用して、パッケージの改善を行います。

特に、研究者側の視点のみでつくられたパッケージを押し付ける事がないように、農民の代表との定期的な集まりとなる農民学校を有効利用し、一年を通し農民とともに彼らの生活環境にもっとも適したパッケージの開発を目指します。

これまでの活動を通し、スーダン側カウンターパートの主体性が非常に強く理想的な環境でプロジェクトを進めることができている。例えば、大学の全額負担による実験室の拡張や、予算が限られているゲダーレフ州での普及活動への農業省やARCの参加など、スーダン側の積極的な支援を受けています。今後もこれら協力体制を大切にプロジェクトを円滑に進めていきたいと思えます。

### 桑田 弘史

／くわた ひろし

イギリスNGOでアフリカ各地域の遊牧民、牧畜民支援を行った後、2010年3月より当プロジェクト業務調整員として勤務。



NGO時代にカッサラでの活動経験もあり、スーダンは今回で2度目。毎週金曜日はハルトゥームサッカーチームでさわやかな汗を流しています。



— いろいろなプロジェクトの専門家の方々から、スーダンで活動する中で感じるさまざまな思いや発見などを綴っていただくコーナー —

南部5回目は、水道事業管理能力強化プロジェクトの佐藤 専門家です。

## 水道事業管理能力強化プロジェクト チーフアドバイザー/水道事業運営 佐藤 弘考

### 南スーダンでの水道事業

本プロジェクトは、南部スーダン水道公社ジュバ支所の運営管理能力を強化し、安全な水を市民に公平に分配できるようになることを目標としております。

昨年11月、業務を開始しましたが、当時、職員は日がな一日マンゴーの木の下でおしゃべり、施設の維持管理記録は全くなく、水質や水量はまったく管理されておりませんでした。職員の知識を知るために実施したプレテストの結果は平均30点台、これから、管理データの記録付をするにもコンピュータを触ったことのない職員がほとんどでした。従って、研修はコンピュータの基礎操作訓練から開始しました。並行して、電子管理記録フォーマットを作成し、職員に記録の方法を指導し始めましたが、今まで全く記録付の習慣がなかったため、当初は、なかなか根付きませんでした。しかし、連日の専門家による手取り足取りの指導でなんとか記録付が可能となりました。その後、年度替わりで2か月間プロジェクト期間が空きました。この間の記録付の継続は期待していませんでしたが、離任翌月に、職員から一か月分の記録結果が添付されたメールが届き、メンバー一同驚くとともに、活動が無駄ではなかったことを実感しました。現在でも、まだマウスの使い方を難しがったりしていますが、なんとかコンピュータを使用できるまでになり、蓄積されたデータの分析研修を開始しました。



水質試験研修風景

また当時、浄水場内にはごみが散乱し、浄水場の柵外にも大量のごみが投棄、場内にはヤギや犬が徘徊するような状況で、とても飲料水を製造している場所とは思えませんでした。まずは何より先に、「安全できれいな水はきれいな浄水場環境から」との専門家の問題提起により清掃キャンペーンを開始しました。清掃当日、最初は専門家チームが開始した清掃の様子見しておりましたが、最終的には100人近い職員が清掃に参加、公社総裁も手袋をはめて参加し驚かされました。現在も清掃活動は毎週金曜日に行われており、参加者の増減はありますが定着しつつあります。



毎週月曜日、主要な職員を集め週例会議を開催しております。当初、職員から発言や要望があまりありませんでしたが、現在では、こうしてほしいという発言が増えてきました。今後は、専門家に対しての要望ではなく、自分達がこうしようという方向に持っていければと思っております。活動は、まだまだ、専門家チームが主導している段階ですが、徐々に、活動の主体を職員主導に変え、最終的には、職員が独自で活動を企画・発展させていくことができるようになればと考えております。

このような活動に対して、総裁いわく、職員は仕事をすることかどのようなことかまだ咀嚼中で混乱の中にあるが、本プロジェクトにより職員の仕事に対する意識が大きく変わってきていると。

更に、市民へ飲料可能な水を配るのだというメンバーの強い意志が、水道局独自でビン詰飲料水を販売するアイデアに結実してきております。

今回、技術協力プロジェクトを実施する中で、活動を消化するのに加え、活動をとおして職員を啓もうしていくことが重要であることを私自身勉強になりました。教えた技術・技能の上に立ち、職員自らが考えることにより、より多くの変革、価値を生み出すような独自性・創造性を発揮できるような意識付・自覚付を今後も一緒に考えていきたいと思っております。

今年の7月9日、南部スーダンは独立を果たし新生南スーダンとなります。この貴重な機会に立ち会えたことを感謝するとともに、今後も、南スーダンの水道事業の新生に協力できればと考えております。

### 佐藤 弘考 / さとう ひろたか

#### 略歴

チーフアドバイザー/水道事業運営  
(株)東京設計事務所 海外事業部

2008年～09年のジュバ水道開発調査からジュバ水道業務に従事。

ジュバでの楽しみは日本のつまみで飲む夕食のビール、ナイル川での釣り。



## 着任 挨拶



木村 真樹子〔南スーダン駐在員事務所 企画調査員〕 2011年4月

4月26日にジュバに企画調査員として着任しました木村真樹子と申します。ジュニア専門員として本部に勤務していた今年1月に出張でカッサラを訪問した際、カッサラの水を飲んだことから(?)、スーダンの土地に舞い戻ってきました。今回は、平和構築・援助調整担当として、主に南スーダンのインフラ分野事業と援助協調と担当しています。新生国家として独立した貴重なタイミングで、このような業務に従事できることを大変嬉しく思っています。着任してから2ヶ月が経ち、業務の難しさも感じていますが「心体元気に」をモットーとして、毎日明るく前向きに過ごしていきたいと思っております。どうぞよろしくお願ひします。



高山 琢馬〔南スーダン駐在員事務所 在外専門調整員〕 2011年4月

4月に在外専門調整員としてジュバに着任いたしました。広報、調達、便宜供与等を担当いたします。こちらに着任する前は、協力隊員として、太平洋の真ん中のマーシャル諸島共和国におりました。環礁の小さな島から、初めてアフリカ大陸へ上陸しました。戸惑うことも多いですが、微力ながら新生南スーダンの国づくりのお手伝いが出来ればと思っております。どうぞ宜しくお願ひ致します。



福田 秀正〔南スーダン駐在員事務所 所員〕 2011年7月

7月5日、独立間際の熱気にあふれるジュバに降り立ち、「さあやるぞ！」と身震いがしたのを今も思い出します。

ガーナ&シエラレオネでのOJT後、青年海外協力隊事務局、産業開発部(省エネ、再生可能エネ担当)を経て、念願のアフリカに戻ることができました。新国家と共に日々少しずつ成長を遂げていけるよう努めますので、今後よろしくお願ひいたします。

## My Favorite! シアバター

大江 景

元南スーダン駐在員事務所・在外専門調整員)

シアバターとは、シアバターノキの種子の胚から得られる植物性脂肪で化粧品やスキンケア用品に利用されています。南スーダンの適度な雨量と気候が育むシアバターノキ(アラビア語でLULU)は神秘の木として崇められており、木への接触が許される現地の女性たちはシアの実の中の種をおしゃべりや歌を歌ったりしながら集め、粉碎からバターの作成、シアバターを利用した石鹸やクリーム作りまでをこなします。

フランスの化粧品メーカー「ロクシタン」の創業者がアフリカ旅行中に現地の女性の肌の美しさに気づいてシアバターを知ることとなり、そのまま商品として発売したのは1992年。今ではシアバターの保湿力が注目され企業による商品化やフェアトレードを通して日本でも手に入りますが、南スーダン首都であるジュバで手にする南スーダン産、手作り感があふれ現地女性との繋がりが感じられる無添加シアバター製品はお肌と心に潤いを与えてくれます。



### 編集後記

当ニューズレターは、今月をもって終了させていただきます。今後のJICAスーダン情報は、事務所ウェブサイト (<http://www.jica.go.jp/sudan/index.html>) からご覧ください。

ご愛読いただきありがとうございました。

JICA SUDAN NEWS LETTER  
VOL.8

JICA Sudan Office  
House#14, Block #10, St.49  
Amarat, Khartoum, Sudan  
発行: 広報担当